

令和5年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報 告 地 区：十勝地区
- 2 事例報告学校名：音更町立東士幌小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 増 田 覚
- 4 キーワード：特色ある学校経営…地域連携

1 はじめに

本校がある東士幌地域は、音更町の北東に位置し、畑作、酪農を基幹産業とし、小麦、ジャガイモ、ビート等の栽培、肉牛の飼育等を行っている地域である。また、以前は東士幌神社の東側に東士幌競馬（白川競馬）場があり、東士幌祭典余興としてばん馬が盛んに行われていた。現在も少数ではあるが帯広競馬場競走馬の生産・飼育が行われている。

本校は町役場から15km弱の場所にあり、スケートも町営リンクを利用するなど、生活圏の一部となっている。現在児童数は低学年2名、中学年4名、高学年2名の8名、家庭数8戸と極小規模校である。そのため、学校運営協議会を中心とした地域、保護者の協力・連携のもとで教育活動が成り立っている。以下、地域連携を中心とした本校の取組について紹介する。

2 地域組織との連携

(1) 東士幌環境保全会との連携

① 農園活動

10月に行う収穫フェスティバルをゴールに見据え、そこで調理する食材を農園で育てていく活動を行う。その際、野菜を育てていくうえでの専門的な知識や知恵を地域の方々に指導していただき、収穫フェスティバルの中で成果として発表している。収穫フェスティバルは、食育も兼ね、縦割りグループごとに育てた野菜を使って調理し、招待した保育所園児や保護者に振る舞うとともに、母親が中心となってデザートを提供があり、児童の活動を応援してくれている。



② 苗植え活動

校舎前を彩る花壇に、環境保全会から提供していただいた花の苗を植える活動である。PTAの母親に参加いただき、縦割りグループに分かれた児童とともに、花壇を作っていく。この後、前述した農園活動とともに朝の水やり当番を決め毎日計画的に花壇を管理していく。



(2) 地域活性推進委員会との連携

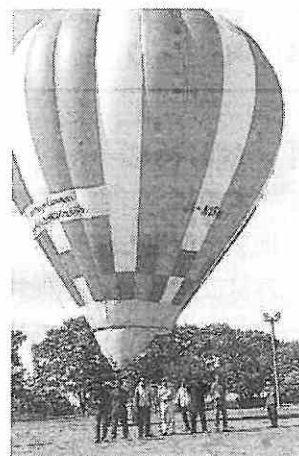
① 運動会協力

運動会前日はPTAに協力いただきグラウンド整備と会場づくりを行っている。当日は、用具係として地域活性化推進委員会のスポーツ推進員に協力していただき、保護者が児童の競技

を見られるように心遣いをいただいている。また、児童の競技の合間に地域種目を混ぜたり、保育所・児童・保護者、地域合同リレー等の競技も取り入れたりしながら地域参加型の運動会を作っている。

② 熱気球体験

地域活性化推進委員会の活動として熱気球体験を行った。地域として児童のためになることを考え行動に移した企画である。上士幌高校熱気球部に連絡を取り、部活動の一環として全面的に協力してもらえたことで成立した活動である。学校ではこの活動を授業に位置付け、気球の大きさや重さ、素材について学び、気球が大空に舞い上がる仕組みについて熱の利用としての学習を深めた。また、気球に乗った体験を作文絵や日記にまとめ、礼状とともに上士幌高校熱気球部に送った。空から自分の住んでいる地域を見た感想や気球に夢を乗せ真剣に取り組む高校生についての感想も書かれていた。



3 地域人材を活用した教育活動

(1) 乗馬体験

ばん馬を生産、飼育している方のところへ行き、施設見学や乗馬体験を行わせてもらっている。地域の仕事を知り、体験するキャリア教育と同時に、体験をもとに図工の絵や国語での作文として表現する活動にもつなげている。



(2) 炭焼き体験

「炭は地球を救う」と題し、その方に出前授業を行っていただき、炭づくりの工程だけでなく、木を切ることで林が育つ原理やCO₂削減につながる取組になっていることなど環境学習、SDGsの学習と関連付けて行った。実際にチェーンソーを使って木を切り倒す作業を見学させていただきながら、炭にしたいものを見付けオリジナルの炭を作らせてもらい、この後の児童の活動として、オリジナル炭を使った飾り炭に仕上げたり、その時の炭で焼き芋づくりをしたりという活動につなげていく。



4 おわりに

地域、保護者の方々に支えられ、少人数でありながらも不自由さを感じさせない整った教育環境が存在している。ただ、児童が協働的な学びを展開していくには本校だけでは無理があることも事実で、一人学年になることや様々な人と関わる中で培われていく社会性を身に付けていくことに課題を感じている親がいることも否めない。児童は親の職業に敬意を払い、将来自分たちも農家を継いでいくことを夢見て生活している。今後も地域のよさに目を向け、この地域で育っていくことに誇りをもちながら、東士幌の環境を最大限生かし豊かな人間性を養っていく教育活動を展開していきたい。